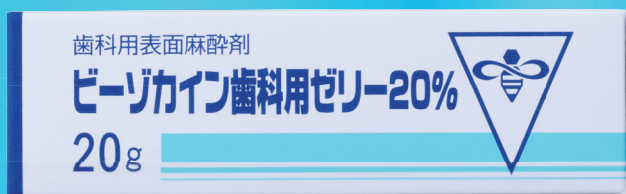
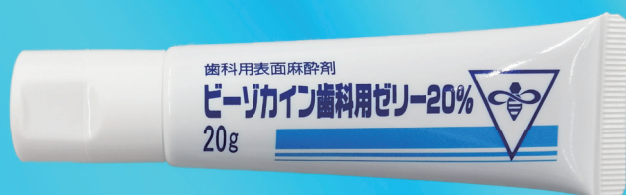


歯科用表面麻酔剤

# ビーゾカイン 歯科用ゼリー-20%

アミノ安息香酸エチル歯科用ゼリー

BEEZOCAINE Dental JELLY



成分・分量	100g中 日局アミノ安息香酸エチル20.0g
効能・効果	歯科領域における表面麻酔
包装	20g (ポリエチレンチューブ入り)

## 使用方法

口腔内の洗口・消毒を行った後、簡易防湿を施し適用部位及びその周囲を十分乾燥させ本剤を塗布する。麻酔発現後は脱脂綿で拭き取り、術後うがいをして洗去する。

## 用途

- 麻酔注射時の刺入点
- スケーリング時
- 歯肉圧排時などにおける痛みの緩和
- 補綴領域の疼痛
- 歯肉切除時
- 支台歯形成時

## 特長

- 短時間(約30秒)で麻酔作用を現し、適度な持続時間(約5分)がえられます。
- ゼリー状のため塗布操作及び量の確認が容易です。
- 塗布部位が確認しやすいように、青色に着色しています。
- 小児好みのバナナ風味をつけています。
- 適量を取りやすいノズルタイプで、開閉が簡単なヒンジキャップを採用しています。

## 【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

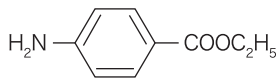
1. 安息香酸エステル系局所麻酔剤に対して、過敏症の既往歴のある患者。
2. メトヘモグロビン血症のある患者[症状が悪化する恐れがある]。



# ビーゾカイン歯科用ゼリー 20%

2016年11月改訂(第7版)の添付文書の記載に基づき作成

薬効分類名	歯科用表面麻酔剤
日本標準商品分類番号	872710
商品名	ビーゾカイン歯科用ゼリー 20%
一般名	アミノ安息香酸エチル
剤形	口腔用ゲル剤
規制区分	処方箋医薬品
承認番号	22100AMX00927000
貯法	気密容器保存
薬価基準収載年月	2009年9月
販売開始年月	1987年11月
禁忌 (次の患者には投与しないこと)	1. 安息香酸エステル系局所麻酔剤に対して、過敏症の既往歴のある患者。 2. メトヘモグロビン血症のある患者(症状が悪化する恐れがある)。
組成・性状	100g 中 有効成分：日局アミノ安息香酸エチル 20.0g 添加物：ベンゼトニウム塩化物、サッカリンナトリウム水和物、ベンジルアルコール、マクロゴール 4000、マクロゴール 400、青色1号、香料、バニリン  本剤は青色透明～半透明の半固形ゼリー状で、芳香があり、味はわずかに苦く、舌を麻ひする。
効能・効果	歯科領域における表面麻酔。
用法・用量	本剤を適量取り、局所に塗布する。
使用上の注意	1. 重要な基本的注意 1) 局所麻酔剤の使用に際しては、まれにショック様症状を起こすことがあるので、常時、直ちに救急処置のとれる準備が望ましい。 2) 本剤の投与に際し、その副作用を完全に防止する方法はないが、ショック様症状をできるだけ避けるため次の諸点に留意すること。 (1) 患者の全身状態の観察を十分に行うこと。 (2) できるだけ必要最小量にとどめること。 2. 副作用 1) 重大な副作用 (1) ショック ショックがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧降下、顔面蒼白、脈拍の異常、呼吸抑制等の症状があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。 (2) 中枢神経 振せん、痙攣等の中毒症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、ジアゼパム又は超短時間作用型バルビツール酸製剤(チオペンタールナトリウム等)の投与等の適切な処置を行うこと。 2) その他の副作用 (1) 中枢神経 眠気、不安、興奮、霧視、眩暈、悪心・嘔吐等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、ショックあるいは中毒への移行に注意し、必要に応じて適切な処置を行うこと。 (2) 過敏症 じん麻疹等の皮膚症状、浮腫等の過敏症状があらわれることがあるが、これらの場合は投与を中止する。 (3) 血液 メトヘモグロビン血症を起こすことがあるので、このような場合には使用を中止し、適切な処置をとること。 3. 適用上の注意 1) 本剤を用いる前に口腔内の洗口および消毒を行い、脱脂綿等により簡易防湿を施し、適用部位およびその周囲を十分乾燥させること。 2) 麻酔発現後は脱脂綿等で拭きとり、術後うがいをして、本剤を洗去するよう患者を指導すること。 3) 歯科用以外に使用しないこと。

臨床成績 <sup>1)~5)</sup>	1. ビーゾカイン歯科用ゼリー 20%臨床効果 (総合効果) 施設名 有効率 (有効例数/総例数) 日本歯科大学歯周病学講座 68.0% (34 / 50) 大阪歯科大学小児歯科学講座 74.2% (46 / 62) 岐阜歯科大臨床研歯科診療所 75.0% (24 / 32) 鶴見大学歯学部予防歯科学講座 76.9% (20 / 26) 朝日大学歯学部補綴学第1講座 85.1% (40 / 47)  全身的、局所的に副作用は認められなかった。
薬効薬理 <sup>1)</sup>	1. 麻酔試験：神経幹には効果はないが神経末端部において麻酔作用があり、粘膜および表皮剥離部局所の知覚を麻ひする作用がある。モルモットの眼瞼結膜嚢に塗布、直ちに完全麻酔し、約80分以上持続する。 2. 抗菌試験：本剤はベンゼトニウム塩化物を含有し、 <i>St. aureus</i> FDA 209P, <i>E. coli</i> および <i>P. aeruginosa</i> に対し抗菌力を示した。
有効成分に関する理化学的知見	一般名：アミノ安息香酸エチル 構造式：  分子式：C <sub>9</sub> H <sub>11</sub> NO <sub>2</sub> 分子量：165.19 性状：本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味はやや苦く、舌を麻ひする。本品はエタノール又はエーテルに溶けやすく、水に極めて溶けにくい。本品は希塩酸に溶ける。
取扱上の注意	安定性試験 <sup>6)</sup> 最終包装製品を用いた長期保存試験(室温・5年間)の結果、全ての特性値は規格の範囲内にあり、本剤は通常の市場流通下において、5年間は安定であることが確認された。
包装	20g 20g×10
主要文献及び主要文献請求先	1. 主要文献 主要文献に記載の社内資料につきましては下記にご請求ください。 1) 花村 裕之ら：歯界展望 61 (5) 1027～1033, 1983. 2) 親里 嘉健ら：小児歯科学雑誌 21 (3), 528～536, 1983. 3) 広瀬 淳ら：歯界展望 63 (7), 1581～1584, 1984. 4) 森田 高光ら：日本歯科評論 506, 251～256, 1984. 5) 山内 六男ら：日本歯科評論 532, 253～259, 1987. 6) 株式会社ビーブランド・メディコーデンタル：安定性に関する資料(社内資料) 2. 文献請求先 株式会社ビーブランド・メディコーデンタル 〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路5丁目20番19号 電話 (06) 6370-4182 (代) FAX (06) 6370-4184 (代)

ご使用にあたっては、電子化された添付文書をご参照ください。

製品情報は  
弊社ホームページまで



■お取引先材料店

■製造販売元

 (株)ビーブランド・メディコーデンタル

本社：大阪市東淀川区西淡路5-20-19 | 東京営業所：東京都千代田区神田錦町1-14  
TEL:06-6370-4182 FAX:06-6370-4184 | TEL:03-3295-6926 FAX:03-3295-6927

<https://bee.co.jp/>